

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
平成 26 年度 第 6 回理事会 議事録

- 1.開催日時 平成 26 年 10 月 31 日 午後 6:35～午後 8:40
- 2.開催場所 日本大学経済学部 8 号館 2 階研究室
- 3.理事総数 17 名
- 4.出席者数 7 名（書面表決書 3 名）
出席者（佐藤文宏、山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、森川貞夫、小林均、比嘉正樹 敬称略）
書面表決書（吉村豊、岩山海渡、前河洋一 敬称略）
オブザーバー（池上孝則 敬称略）
- 5.議長選任 議長として佐藤文宏氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

第 1 号議案 前回理事会（9 月 12 日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったため承認されたものとする旨報告があった。

第 2 号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として比嘉正樹氏と小林均氏が選出された。

第 3 号議案 2014 メルボルンマラソンについて
保原氏から実施状況および収支について報告があった。

■日本事務局申し込みの参加者数は最終的に 90 名となった。
公式発表による国別参加者数では日本は 100 名で、オーストラリア（29,723）、ニュージーランド（169）に次いで昨年同様第 3 位だった。
今回の特徴としては、お子さんを含めた家族や短期留学中の関西外語大生が約 20 名と多く、3km ウォーク、5km の参加者が多かったため、参加費収入は昨年に比べ約 30 万円減となった。その影響もあり、今年は収益事業に関わる税金約 10 万円を含めると約 40 万円程度の赤字になる見込みである。当面は内部留保金でカバーせざるを得ないので、了承願いたい。

■大会終了後、メルボルンマラソンに毎年参加している脳性麻痺の子どもたちのトレーニングセンターである C P E C を訪問した。
当センターは脳性麻痺の子どもたちを 2 歳から受け入れ、独自に開発した教材を活用してトレーニングをしており、その結果、全員が就学時には普通の学校に通えるようになっていたとのこと。
補助器具の製作に多額の費用が発生しているが、国からの補助は半分だけなので、残りは寄付金などでカバーをしており、メルボルンマラソンからの寄付金には大いに感謝しているし、メルボルンマラソンへの参加は彼らにとってとても良い体験となっている。何らかの形で、今後サポートできたらと思う。

■黒田氏のレポートを HP に掲載する予定なので、現地での状況はそちらで確認して欲しい。

第4号議案

各種ランニング教室について

保原氏より各事業の状況について報告があった。

■ JSIE マラソン完走教室

参加者は毎回コアメンバーだけの3～4名で推移している。これからは大会シーズンになるので、参加者の増加を期待している。

■ 熟年ランニングスクール

在籍者11名で、皆さん熱心で参加率は毎回80%程度であり盛況である。

■ 浦安・美走塾

本年度の2回目は10月25日(土)にスタートした。今回は前河先生の教え子である菅原氏に担当して貰う。

第5号議案

JENESYS2.0「フィリピンマラソンチーム招聘」について

保原氏より実施状況について説明があった。

【9/16(火) PM: 都内スポーツ関連施設見学】

午前中のオリエンテーションから午後のJISSおよびナショナルトレーニングセンター見学まで小林、保原の両氏が同行した。

【9/17(水) AM: マラソン選手による指導】

江東区の夢の島陸上競技場で宇佐美氏の指導を実施。前半は講義、後半は実技指導を行い、岩山、保原の両氏がサポートした。その後、保原氏が東京マラソンコースを案内。時間の都合で浅草からは皇居に直行した。

【9/17(水) AM: 市民ランナーとの交流】

都内観光を兼ねた「東京マラソンコース」見学後、ラフィネランニングスタイルで着替えをし、皇居を1周ランニングした。宇佐美、保原両氏の他、AVRC 東京から3名、JSIE マラソン完走教室から1名と一緒に走った。

その後、日大経済学部7号館の14階レセプションルームで交流会を実施し、JSIE 関係者、AVRC 東京、JSIE マラソン完走教室からの参加者を含め40名が参加した。

【9/18(木)～9/19(金): 学校交流】

JSIE からは比嘉、保原の両氏が同行。

上田監督の配慮で、山梨学院大学の部員3名がお世話役として細かな対応をしてくれた。

18日(木)の山梨学院大学で合同練習ではレベル別に個別に対応して頂いた。

練習後、山梨大学で、山梨大学、都留文科大学との交流会を実施。山梨学院大学からはお世話役の3名が参加してくれた。

男子は合宿所で部員の部屋に、女子は県スポーツ会館に宿泊。

19日(金)は朝の合同練習後、午前中は上田監督の講話と山梨学院大学の見学。

夕方は体幹トレーニングとバランストレーニングを合同で行い、山梨日日新聞の取材を受けた。

【9/19(金): 表敬訪問】

フィリピン招聘団の団長を含めた代表5名が山梨市長を表敬訪問した。

JICE からは責任者と担当が、JSIE からは佐藤理事長と比嘉、保原の両氏が同席した。

【9/20（土）：山中湖、河口湖、富士山観光】

河口湖を経由して、富士山 5 合目の富士吉田口を観光。

森川氏の紹介で山中湖畔荘「ホテル清溪」に宿泊。森川、保原の両氏が同行。

【9/21（日）：「巨峰の丘マラソン大会」体験】

20km、10km、5km の部に 16 人が国際交流選手のビブを着けて参加し、男子 10km、女子 20km の部はそれぞれトップでゴール、全員が無事好成績で完走した。

また、数名は大会運営のボランティアとして市のゆるキャラぬいぐるみも体験。

大会終了後、地元メディアの取材も受けた。森川、保原の両氏が同行した。

【9/22（月）：成果報告会】

両国大使館および外務省の担当者出席のもと、神谷町のスタンダード会議室でブルネイ招聘団と合同で成果発表会が行われ、日本での体験を活かした帰国後の活動に関する決意表明が発表された。比嘉、保原の両氏が出席した。

第 6 号議案

市民ランナー交流セミナー・国際交流駅伝について

保原氏より進捗状況について報告があった。

■第 5 回国際交流駅伝

現時点での参加申し込みは 6 チームのみで、出足が悪いので参加呼びかけをお願いしたい。赤字にならないように、できるだけ経費を削減したいので、参加賞等で協力頂けそうな企業があれば、声をかけて頂きたい。

■第 7 回市民ランナー交流セミナー

比嘉氏より、黒田、保原両氏と作成した開催案について説明があり、内容について審議を行った。

ー大きな流れとしては、6 月に東大の池上助教が開催している「市民マラソンフォーラム」とは”魅力的な大会創り”という共通点を活かして、協力関係を築いていくことになった。

ーその一環として、池上氏が開発し、ランニング学会の発表表も受賞している「フィニッシュタイム変換システム」の普及にも協力することになり、その概要について池上氏より説明を受けた。

ー今回のセミナー（国際交流フォーラム）は前回のテーマであった「ランニング大会での日本流”おもてなし”を考える」の続編として、「郷土愛で創るランニング大会」をサブタイトルとして開催する。

ー基調講演はスポーツジャーナリストの増島みどりさんをお願いする。

第一部は 5～6 大会にプレゼンをして貰い。第二部でシムポジウムを行う。

池上氏の「フィニッシュタイム変換システム」のデモンストレーションや大会の PR 展示などを見て貰うために第一部と第二部の間に 30 分の休憩時間を取る。

ーシムポジウムのあとは、懇親会を兼ねた東京マラソン参加者対象のカーボローディングパーティーを開催し、希望者には直前クリニックも受けられるようにする。

ー昨年整備した大会リストに基づいて開催案内を送付するとともに、昨年は実施できなかったメディアや関連企業への案内も行う。また、東京マラソン参加者を中心に市民ランナーに対してもカーボローディングパーティーを含めた告知を行うこととした。

第7号議案 その他新規案件の具体化について
森川氏より下記2件について状況説明があった。

- 孫基禎マラソン（11/16開催）
森川、小林の両氏が視察に行き、今後の進め方等について先方事務局と話し合いを行う。
- イタリア・トスカーナキャンプ
主催者の杉田さんが来日中なので、森川氏が今後の展開等について確認する。
来年3月頃には森川氏が現地を視察に行く予定である。

第8号議案 役員改選について
本年度末で任期満了となるので、すでに退任の意思表示をしている方を含めて、継続の意思確認を事前しておくことになった。

第9号議案 その他
■次回理事会について
12月5日(金)の午後6時30分から理事会を行うことになった。


以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時40分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

平成26年10月31日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長 佐藤文宏 

議事録署名人 小林均 

議事録署名人 比嘉正樹 